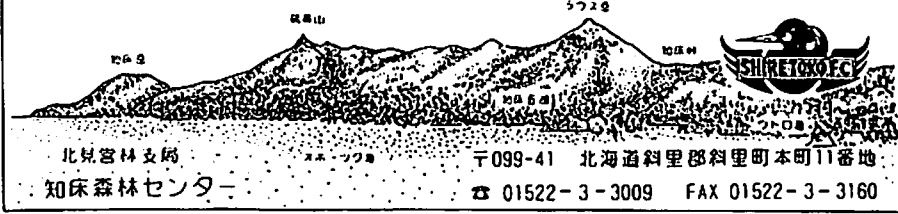


知床の森から



活火山へ 森林浴登山

「森林レク・in知床」

子供たちの夏休み中に「親と子で深緑の知床の山を歩いて見ませんか!」と題した、知床森林センター主催の第10回「森林レク・in知床」を立秋の8月8日、知床硫黄山で実施しました。硫黄山に通じる道路ぶちの草花は、夏の花からヤマハギ・ススキなど秋の花へと徐々に衣替えが始まり、短い知床の夏は終りに近づいています。

そんななか、新素材のアウトドア・ウェアで身を包んだ小中学生とお母さん、若き頃よく登山を楽しんだレトロ・ファッションの老夫婦など総勢45名の参加者たちは、網走管内唯一の活火山である知床硫黄山の新噴火口めざし森林浴登山を楽しみました。すでにシラタマノキ・クモモなど高山植物の花は、果実となって秋のメッセージを携え、夏の名残を添わせるコエゾセミの鳴き声に季節の終りを告げようとしていました。森林インストラクター等に引率された参加者たちは、過去の噴火活動により森林が壊滅し、その跡地に残った樹々の説明を受け、生命力の強さに感心したり、ヒクマが蟻塚を掘った生々しい跡を見てビックリしたり、あらためて今、自分が自然のご真ん中にいることに感動した様子でした。

その後、大自然をテーブルとイス替わりに、手作り弁当をひろげた親子・夫婦たちは、吹き出る熱水を利用し、それぞれの場所で「ゆで卵」を煮たり、硫黄の漂白作用を10円硬貨で実験するなど、普段途絶えがちな親子のスキンシップ・老夫婦のエイジレスライフを大自然の中で確認しあう有意義な一日を過ごしました。



☆今・・・知床森林センターは!

一つの節でもある第10回森林レクも盛況裡に終わり、森林センターでは次回森林レクおよび地元産業祭り(いずれも10月初旬)への参画準備に取りかかっています。

これらの行事は地域住民に既に受け入れ定着していることから、アンケートを分析し「より個性的で斬新なもの」への企画に職員一同知恵を絞っているところです。また同時に、動植物の調査・写真撮影、葉計の各種調査など、お盆明け後も慌ただしい毎日が続いています。



シリーズ知床八景 ⑥夕陽台

ウトロ市街背後の高台にある国設知床野営場の一角に「夕陽台」があります。名の通り、この箇所から水平線に沈む夕陽は、他のどこよりも素晴らしい、古くから夕陽観賞・写真撮影の好ポイントとして旅人やカメラマンに愛され親しまれてきました。



【夕陽台からウトロ港三角岩を望む】

野営場を利用するキャンパーたちが夕食を食べ終える頃、西空を巨大なスクリーンとした落日が始まります。落日は三角岩のシルエットを友に、オホーツクの海を金色に染め、やがて全ての立体を闇に包んでいきます。台詞もBGMもない落日ですが、観る人すべてに「感動とロマンを与え旅の疲れを癒してくれる」そんな素晴らしい夕陽が沈む高台、それが「夕陽台」です。

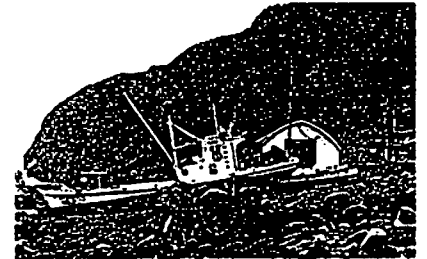


知床は「今!」



オホーツク沿岸の街、雄武町から斜里町まで約200kmを2日間で走りぬける「オホーツクサイクリング」、「しれとこ夏まつり」のメインである「斜里なぶた」など、夏のビック・イベントも終り、季節は徐々に味覚の秋へと移る今、知床は観光ラッシュを迎えています。

知床を訪れている観光客がまだ寝静まっている早朝のウトロ港では、鮭鱒漁に向う漁船のエンジン音が響き、秋の風物詩である「定置網おこし」が沖で始まっています。陸では広大な耕地に作付された小麦が黄金色のジウワタンに変わり、その上を大型コンバインが走り回り、牧草地では刈り取られロール状に丸められた家畜の飼料が、初秋の陽射しを浴びています。知床は今、陸も海も収穫期を向えています。



【秋鮭漁の準備に追われる番匠】



知床伐採から4年 (択伐施業跡地)

知床伐採問題が国民の関心事として沸き上がり、これをオポチュニティに国民の願望はよりアメニティな方向へと動き始めました。それから4年が経過し、自然回復発祥の地ともいえる傍別地区の施業跡地は、4年の歳月が忘却の手助けをしたかのように、いまは立ち止まる観光バスも一般旅行者もなく平静さを装っています。

その施業跡地は現在「知床自然観察教育林」に指定され各種森林教室のフィールドとなり地域住民の憩いの場として、また、林学関係者の研究フィールドとして賑わいを増し、7月には京都大学・長野林業大学など林学を専攻する学生たちの熱いディスカッションが聞こえてきました。更に、北見営林支局初の「森林インストラクター受託事業」が、森林文化協会・朝日新聞社の主催で実施されるなど、知床の自然が凝縮した「知床自然観察教育林」は、精神面・教育面・学術面にと多目的なフィールドとして利用されています。